

機関番号：37102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20720056

研究課題名（和文）

『うつほ物語』享受史における奈良絵本と板本の影響関係についての調査研究

研究課題名（英文）

A study of the Nara-Ehon "Utsuho-Monogatari"

研究代表者

田村 隆 (TAMURA TAKASHI)

九州産業大学・国際文化学部・講師

研究者番号：70432896

研究成果の概要（和文）：

奈良絵本『うつほ物語』の本文は諸本の調査の結果、古活字版に基づいて製作されたものと万治版に基づいて製作されたものとに大別され、挿絵も同様に板本の影響を受けていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

The Nara-Ehon "Utsuho-Monogatari" can be classified into two classes. one is based on the Kokatsujiban, and the other is based on the Manji-edition.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：うつほ物語、奈良絵本、板本、古活字版、万治版、絵巻

1. 研究開始当初の背景

『うつほ物語』の研究は『源氏物語』の研究に比して随分と立ち後れている感があるが、その傾向は特に物語が絵画化された絵本・絵巻の分野において特に著しい。『源氏物語』の絵巻については国宝に指定されている院政期の『源氏物語絵巻』をはじめ古い絵巻が残っているが、『うつほ物語』に関しては『源氏物語』絵巻に「白き色紙、青き表紙、黄なる玉の軸なり。絵は常則、手は道風なれば、いまめかしうをかしげに、目も輝く

まで見ゆ」のごとく絵巻の存在を示唆する記述はあるものの現存はせず、江戸時代に入ってから絵本・絵巻しか残っていない。

しかし、『うつほ物語』の絵本・絵巻はいわゆる奈良絵本と称される一群であり、『うつほ物語』の問題のみならず、奈良絵本全体の製作事情を考える上でも大いに参考となる資料である。以上の背景を鑑み、本研究は、『うつほ物語』享受史における奈良絵本と板本の影響関係について明らかにするものである。

2. 研究の目的

『うつほ物語』の奈良絵本はいずれも江戸時代前期に制作された十数点（絵巻を含む）が現存するのみで、特に絵巻は九州大学附属図書館蔵本・天理図書館蔵本（二本。一本は零本）・九曜文庫蔵本・国文学研究資料館蔵本の五本のみである。本研究では奈良絵本『うつほ物語』を板本との影響関係に注視しつつ詳細に研究する。従来は、奈良絵本を基に板本が制作されたと考えられてきたが、逆に板本から奈良絵本が作られたのではないかという報告者の仮説を実証する。それは、『うつほ物語』固有の問題にとどまらない。絵入板本が流布した江戸時代前期において、肉筆のテキスト「奈良絵本」と印刷のテキスト「板本」とがどのように交わっていたかという文化的観点からの成果をも期待できる。

3. 研究の方法

本研究を実施するためには、まずは奈良絵本・絵巻の『うつほ物語』の写真・マイクロフィルム複写を蒐集することが急務である。九州大学附属図書館が所蔵する『うつほ物語絵巻』についてはすでに原本を幾度も閲覧し、内容を詳細に調査しているが、その他についてはいまだ手つかずの状態である。早稲田大学図書館や天理図書館、京都大学附属図書館など、奈良絵本『うつほ物語』を所蔵する諸機関に依頼し、マイクロフィルム等による複写資料を蒐集することから研究を開始する。蒐集した奈良絵本資料を一点一点詳細に分析し、本文の特色を正確に把握する。その際、必要に応じて奈良絵本の所蔵機関に出張し、書誌調査を行う。また、上述の調査と並行して、古活字版二種および万治三（1660）年刊行の『うつほ物語』板本についての検討が必要である。以上の方法によって、奈良絵本と板本の影響関係を明らかにする。

4. 研究成果

奈良絵本『うつほ物語』について、九州大学附属図書館蔵本から調査を始めた。本書は卷子本五巻から成る絵巻であるが、本文を検討した結果、万治三年刊行の絵入板本に基づいて制作されたことが明らかになった。また、九曜文庫所蔵の横本および絵巻についても、同様に万治版に基づいて制作されたと思

れる。京都大学附属図書館蔵本については同館が公開しているデータベースによって調査を試みたところ、古活字版第一種に基づくものと思われた。尚、天理図書館所蔵の絵巻二本（一本は零本）については、閲覧の許可が下りず調査を見送ったが、目録に掲載された一部の図版を見るかぎり、五巻本の本文は古活字版第一種によるものと推定される。京都大学本・天理図書館本については西村宗一・笹淵友一『校本うつほ物語』（興文社、昭和15年）に言及がある。

また、最終年度の平成22年度には、平成23年1月24日から3月11日まで開催された国文学研究資料館通常展示「物語そして歴史—平安から中世へ—」の準備に携わる機会を得た。この展示会には『うつほ物語絵巻』二本が出展された。すなわち、九州大学附属図書館細川文庫蔵本と新出の国文学研究資料館蔵本である。この新出本を調査した結果、古活字版第一種に基づいて制作されたものであることが判明した、

九州大学本や九曜文庫本などの調査で示した「板本→奈良絵本」の流れが新出本においても確認された。すでに調査を終えている九州大学本と比較することを通して、挿絵や本文の相違点が明らかになった。奈良絵本『うつほ物語』の本文は古活字版に基づくものと万治版に基づくものとに大別でき、挿絵もそれに影響されていることが確認された。

本研究の成果をふまえて『物語そして歴史（国文学研究資料館展示図録）』に執筆した九州大学蔵本と国文学研究資料館蔵本の解説の一部を以下に掲げる。

(1) 九州大学蔵本

『うつほ物語』の奈良絵巻。肥後熊本藩の支藩、宇土細川家の旧蔵書で、現在は九州大学附属図書館の細川文庫に所蔵される。寛文頃の製作と見られる。卷子五軸、当館所蔵本と同じく俊蔭巻のみを独立させた絵巻で、絵の数は当館所蔵本より十図少ない十八図。巻一・二・四に三図、巻三に五図、巻四に四図が描かれる。巻序が乱れており、物語の進行に沿って並べ替えると、巻三→巻二→巻五→巻四→巻一となる。題箋の誤貼が原因であろう。外題は「うつほ物語」。表紙には金欄を用い、料紙にも金泥で草花の下絵が描かれる。

本書の本文は万治三（一六六〇）年に刊行された絵入板本（三冊、俊蔭巻のみ）によると思われる。本文の類似にとどまらず、字母や字配りに至るまでかなりの程度において一致する。絵巻には単純な誤写・誤脱が見

され、先後関係としては板本が先に成立したと見るべきであろう。他に九曜文庫所蔵の絵巻もこの万治版によったかと思われる。ちなみに、万治版の本文は先行する古活字版よりもむしろ浜田本の系統に近い。

両者の絵巻を比べると、たとえば俊蔭が阿修羅に対し琴を作るための木を分けてほしいと頼む場面（巻三）において、阿修羅の絵は国文学研究資料館蔵本には鬼神の姿であるのに対し、九州大学蔵本では人の姿に描かれる。これも、同様の挿絵を持つ万治版の影響ではなかろうか。

尚、本書は九州大学附属図書館研究開発室作成の「日本古典籍画像データベース」（http://mars.lib.kyushu-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002rare2）において公開されている。

(2) 国文学研究資料館蔵本

『うつほ物語』の奈良絵巻。『うつほ物語』は、平安時代中期、『源氏物語』に先立って成立した長編物語で、清原俊蔭一族の琴の物語や藤原氏の姫あて宮への求婚譚を描いて二十巻から成る。遣唐使俊蔭の漂流と帰還を語る伝奇的内容の首巻俊蔭巻のみが独立して流布することも多い。本書もその一つで、卷子五軸、俊蔭巻の本文と絵二十八図から成る（巻一から巻三は各六図、巻四・五是各五図）。外題は「うつほ物語」。料紙に金泥で草花の下絵を描く。近世前期の製作であろうが、絵の筆致から九州大学本よりも遅れて製作されたと見られる。箱書によれば伝八条宮智仁親王（正親町天皇の皇子誠仁親王の第六王子）筆。『うつほ物語』の絵巻は伝本が少なく、他に九州大学附属図書館、天理図書館（久原文庫旧蔵・西荘文庫旧蔵）、九曜文庫に所蔵されるのみ。いずれも俊蔭巻だけを独立させた絵巻である。

本書の本文は巻三に錯簡がある。俊蔭女の出産が近づく場面で、本来は「されどなをさあるにこそあらめ、とてもかくても覚え、と言へば、……」と続くべきところで「あらめ」の後の千字余りが脱落し、しばらく後にある「我すくせの」の後に入り込んでいる。そのせいで、絵巻の本文は出産がすんだ後で媪が出産時期を案ずるといったちぐはぐな記述になっている。この錯簡は古活字版（二冊、俊蔭巻のみ）にも存し（上巻三十五丁裏～三十八丁表）、両者の密接な関係が窺える。絵巻の本文は古活字版、特にその第一種（川瀬一馬『古活字版の研究』の分類による）によったものと思われる。俊蔭をしばしば「年影」と表記する点も古活字版第一種と共通す

る。第一種本によったとおぼしい絵巻としては、他に天理図書館旧久原文庫本が挙げられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 田村隆、口絵解説・奈良絵本、『文献探究』49、査読無、2011. 3、口絵部分
- ② 田村隆、寛永古活字版『源氏物語』一斑（二）—鶴見大学図書館蔵本をめぐる一、『語文研究』110、査読無、2010. 12、pp. 41-49
- ③ 田村隆、鷲見文庫点描、『九州大学附属図書館研究開発室年報』2008-2009、査読無、2009. 7、pp. 21-26
- ④ 田村隆、硯瓶の水、『語文研究』107、査読無、2009. 6、pp. 23-35
- ⑤ 田村隆、奈良絵本『うつほ物語』の背景、『文学』9-4、査読有、2008. 7-8、pp. 165-179
- ⑥ 田村隆、寛永古活字版『源氏物語』一斑（一）—広島県立歴史博物館黄葉夕陽文庫本をめぐる一、『語文研究』105、査読無、2008. 6、pp. 30-41

〔学会発表〕（計2件）

- ① 田村隆、奈良絵本と板本—うつほ物語絵巻』の場合—、国文学研究資料館展示「物語そして歴史」関連講演会、2011. 1. 24、国文学研究資料館（東京都立川市）
- ② 田村隆、「涙」の表記情報、「日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究」研究会、2010. 10. 1、キャンパスプラザ京都（京都府京都市）

〔図書〕（計1件）

- ① 田村隆、『伊勢物語 坊所鍋島家本』解説、佐賀県立図書館所蔵、国文学研究資料館監修、pp. 161-170（勉誠出版、2009）

〔その他〕（計1件）

- ① 田村隆、うつほ物語絵巻解説『物語そして歴史（国文学研究資料館展示図録）』、査読無、

2011、pp. 23-24、国文学研究資料館

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田村 隆 (TAMURA TAKASHI)

九州産業大学・国際文化学部・講師

研究者番号：70432896

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし